

1. 市町村における環境調査

目的：

用途：

組織：

2. 自然環境調査員の役割

地域の自然を調べ、その現状を科学的に判定し、調べて解析した結果をわかりやすく伝える技量を備えた人、あるいはそうした才能・技量をさまざまな形で備えた人たちのチーム。地域に根ざした自然観察会を開き、自ら自然を守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダーになる。そのための技を意識してみがき、無意識のうちにできるようにする。

すぐれた伝道者は、自らが体験し、調べたことを客観化し、伝達相手を明確に想定し、最も最も適切な手段と手順でそれを実行できる人である。

従来の市民調査員は、

指標種など、環境を指標し、かつ種の判別がしやすい種を対象に、分布調査などを行う。市民参加型調査に受け身で参加する。

受け身で、啓蒙されるだけの立場から抜け出さないといけない。

広く市民が参加して行う広域的な指標種調査の対象種選択、調査方法の提案
地域のフィールドガイド・副読本の作成

3. 自然環境調査員・自然観察指導員への道

散歩：生活環境の地理を把握する

観察：気になることを書き留める

見た生物の名前、スケッチ、現象の記録

予備的分析と気付き

自然の変化（昔たくさんいた生物が最近見かけなくなった）

その変化が事実なのか、確かめる

- 自分なりの目的を明文化する
- 講座・講習を受講する
- 実習を受ける
- 調査に参加する
 - 見学段階
 - 助手・お手伝い
- 自分でも調査を試みる
 - 専門調査員の苦労や楽しさを追体験する（仮説の構築、調査計画、資料の整理と解析）
 - 調査をして見えてくるものがあり、それが妙にうれしい
 - 他の人に伝えたいくなる
 - 自分に足りないものが見えてくる

- 自分の得意なことがわかる→さらにうれしくなる→はまる
- あなたは、はまるのが怖いですか？
- 分かったことの表現と発表
 - まずは、事実関係の正確な認識と因果律の論理的な正しさを求める
 - 伝えるべき内容をしっかりと確認し、伝達の方法と構成・手順を考える
- 伝達
 - 論文・報告書を執筆する
 - 感性に響く写真・イラスト・文章で本質を表現する
 - 観察会を企画して、追体験をしてもらう
 - 展示会を行う
 - 地域の自然を紹介する冊子を編集・出版する
 - スライド映写会を開催する
 - etc

4. 自然環境調査員に求められる技能（補助ツール）

- 生物の識別・同定
 - 観察力（ルーペ、顕微鏡、望遠鏡）
 - 記録・記述力（デジタルカメラ、録音機器）
 - 記憶・参照力（パソコン、携帯端末、フィールドガイド）
 - 自前のフィールドガイドを作成する
- 自然現象の本質的な仕組みを見抜く技能
 - 持続力
 - 忍耐力
 - 集中力
 - 憑依力（〇〇のきもちになって考える）
- 文章をまとめる
- 図で表現する
- 話して聞かせる
-
- 必要な道具・インフラ整備
 - 理科室の利用
 - 図書館の充実